



水ときらめき紀の川館に 団体の来館者がありました

流水調整課

H29.07.05

紀の川大堰の水ときらめき紀の川館に、**和歌山大学教育学部附属小学校4年生**の皆さんが見学に来られ、当事務所の流水調整課3名が案内をいたしました。

まずは紀の川と紀の川大堰のことをクイズ形式で学び、さらに第2部として、利水や自然環境についても学んでいただきました。少し難しいお話でしたが、集中して真剣にメモをとる皆さんの姿が見られました。

また、当日の魚道観察室はガラスを清掃していて、魚道の流れが一部止まっていましたが、めったに見ることのできない清掃風景を皆さんに見ていただくことができ、喜んでいただけました。

たくさんの疑問質問が飛び出し、先生方からも紀の川大堰の必要性や役割についてよく理解できたとお声をいただきました。

団体見学概要

日 時： 平成29年7月4日（火） 9:30～11:00

会 場： 水ときらめき紀の川館

参加人数：32名（生徒30名、先生2名）

団体名： 和歌山大学教育学部附属小学校4年A組

1. 紀の川大堰概要及び利水・環境 についての説明

スライドを用いて、流水調整課長及び非常勤職員が2部構成で説明をおこないました。

集中して話を聞き、一生懸命メモをとる姿が見られました。



2.館内の見学



3階展望デッキで紀の川大堰を見ながら、勉強したことをもう一度おさらいしました。



1階展示ホールで、パソコンのクイズに挑戦したり、展示されている流木の歴史にふれたりしている様子。



2階操作室をガラス越しに見学。たくさんの機械やコンピューターが並んでいます。



職員にたくさんの質問を投げかける子供たち。先生も興味深く聞かれています。

3.館外の魚道見学



魚道観察室のガラス清掃の様子。

きらめき館から徒歩3分ほどで魚道に到着します。約900mある人工河川式魚道を上からのぞいている様子。



階段式魚道の流れを止め、水圧機や手作業で、ガラスや設備に着いたコケやゴミを丁寧に落としていきます。ガラス越しにみんなで手を振ると、作業中の方々が振りかえしてくれ、大歓声があがりました。

質問

Q.農業で使われている水の量はどれくらいですか？

A.紀の川全体でみると、約75%が農業用水で使われています。紀の川大堰でためた水では、約10%が農業に使われており、一番多いのは工場用水となります。

感想

○紀の川のことをたくさん教えてもらえて嬉しかったです。

○水を大切に使い、水を汚さないようにしないといけないと思いました。

